

ディアカコニア



信仰を想い起こす

牧師 齊藤 篤

日本基督教団仙台宮城野教会

キリスト教では、伝統的に11月1日を

「諸聖徒の日」として、すでに天に召された信仰の先達たちを想い起こす日として守り続けてきました。私たちの先達は、作物が実る時期を終え、葉も落ちて、枯木になりゆく11月を人生の終わりになぞらえながら、命の終わりを見つめる時としたのでしょうか。

ただ、私たちは死にゆく人間の姿というものを、悲しみの目ばかりで見つめているわけではありませんし、すでに神のみもとに召された人たちを、神や仏のように崇拜するわけでもありません。すでに神が与えてくださる永遠の平安に、私たちの愛する先達たちが招かれ、安全のうちに守られていることを信じているのです。

そのようななかで、私たちは先達の生きざまというものを通して、その人生を

想い起こすことによって、その人生を導かれた神をほめたたえることができるのです。私たちの神に対する信仰というものを、先達たちの過ごされた人生を通して、振り返り、自分自身を見つめる時としたいのです。

さて、旧約聖書・申命記32章7節は、「昔の日々を思い出しなさい」という言葉から始まっています。40年にもわたって、イスラエルの民をエジプトから脱出させ、約束の地に至るまで導き続けたモーセによる遺言の一節です。

荒野における40年の放浪を、その初めから知っている者は、もはや数えるくらいしかいませんでした。ゆえに、その期間、イスラエルの民たちがどのような道筋をたどったかについては、今、モーセの遺言を聞いている人たち、特に若い人たちにとっては、思い出すのも難しかったでしょう。

だからこそ、モーセは民たちに告げられました。「あなたの父や長老たちに聞えば、答えてくれる」と。まさに、約束

された土地への旅路を経験した先達たちに尋ねれば、その旅がいかに大変で、苦しいものであったかを、しかし、そのような苦勞のなかにあつても、神がいつも守ってくれたことを、あなたがたは父や長老たちから聞くことで、それがあなたがたの信仰となるのだからと、年若く、これから乳と蜜の流れる約束された土地に渡ろうとする人々に伝えたのでした。

つまり、私たちが信仰の先達たちを想い起こすというのは、神に対する信仰の姿を想い起こすことで、私たちの神に対する信仰を見つめ直し、整えて、明日へ向かって神とともに歩んでいくという大きな意味と目的があるということなのです。

そして、モーセの時代からずっと後に、キリストの宣教師として立てられた使徒パウロが、年若い同労者であつたテモテに対して宛てた手紙のなかで「あなたの信仰を思い起こしていた」と、書き綴っています。彼が抱えている偽りのない信仰は、祖母であるロイス、そして母親で

あるエウニケから受け継がれたものであることを、パウロは思い起こしていたのです。年若いテモテもまた、祖母や母親、そしてパウロの信仰の姿から、大切なことを受け取り、自分自身の信仰としていたのです。その姿は、かつてモーセが年若い民たちに告げたように、年長者の人生を通して神を見ることの幸いを得たところに、ぴったりと重なり合うのです。

さて、私は、ある「ひとりの先達」を思い出します。去る8月15日に神のみもとに召された、榎本和子さんです。「いろいろは先生」こと、故・榎本保郎牧師の妻として、長くアシラム運動を担ってこられた、私にとっては大切な信仰の友のおひとりです。

私が和子さんに初めてお目にかかったのは、一昨年の6月のことでした。私がアシラムセンターが主催する集会に参加した際に、早天祈祷会の場に参加しておられた和子さんに出会いました。早天祈祷会では、聖書から一章分の御言葉に聴き、主幹牧師である榎本恵先生による

取り次ぎに耳と心を傾けたのち、参加者が祈りの言葉をつむぎます。そして、早天祈祷会に先立って読まれるのが、その日のローズンゲンに示された御言葉です。アシラムセンターでは、保郎先生の時代から日々のローズンゲンの言葉を大切にしています。

早天祈祷会が終わった後、恵先生が和子さんに私のことを紹介してくださいました。「この人が、ローズンゲンの編集をしてくださっている」と。私は2015年からローズンゲンの編集に携わっている一人ですので、そのことを紹介してくださいったのです。その言葉を聞いた和子さんは、私にご自分が使っておられるローズンゲンを見せてくださいました。そして、私は驚いたのです。

和子さんの使っておられるローズンゲンの冊子を開くと、日々の聖句が書かれているその余白に、黙想の言葉や観想がびっしりと記されていたのです。それだけではありません。その日の聖句が与えるテーマに関係した新聞記事などがさみこまれているではありませんか。この

方は、どれだけ聖書の言葉を通して神の声を聴き、深い黙想をされておられるのかと、私は深い感動を覚えました。そして、日本語版ローズンゲンを編集している一人として、ただ感謝の思いがあふれてきたのでした。2023年版より『日々の聖句』の横幅が少し広がったのは、少しでも書き込みができるようにとの配慮からでした。

それから2年間、幾度となく和子さんにお目にかかるたびに、神とともに歩まれるその信仰から、明らかに私は影響を受けたのは言うまでもありません。和子さんが神の御言葉に聴き、そして従う姿に触れることが、私にとつての励みとなり、慰めとなったのです。

そして、私もこのように神の言葉に聴き、従う者でありたいと、心から願われました。それは、まるでテモテが祖母ロイスから多くのことを学び、それを自分自身の神に対する信仰とした。そのことに重ね合わせるような気がしてならないのです。

4年ぶりのベテスタの日

いずみ寮 藤巻ひとみ

「今年のベテスタの日は対面式でやりましょう！」横田寮長は今年度の初めから、ベテスタの日に祈りの友の方々にお会いできることを楽しみにしていました。

コロナ禍の間に、ベテスタ本館で暮らしておられたシュベスター知恵子、シュベスター都代、シュベスター道子は施設に移られ、シュベスター陽子は天に召されました。一年一年がとても貴重に思われ、法人の中でも比較的交通の便が良いいずみ寮でベテスタの日の集まりができたらと、職員も思い描いていました。

夏になり、皆さんにご案内のお手紙をお送りしました。祈りの友の方からお返事が返ってきました。残念なことに、高齢で一人での外出が難しいとか、介護し



ているので欠席しますとか、いただくお返事は欠席が多かったです。この夏は特に暑さが厳しく、ちょうどその頃にお便りをお送りしたからかもしれません。

それでも、当日9月23日は、シュベスター道、シュベスター道子、シュベスター知恵子の3人の奉仕女をはじめ、祈りの友が6名、各施設職員を含め法人関係者が16名、大泉ベテル教会の方が3名、いずみ寮職員が20名の計48名が参加してくださいました。

この3年間、いずみ寮ではバザーやクリスマス会など外からのお客様をお招きするような行事はこなせていません。また利用者が集まって密になる行事も避けてきました。こ

の3年の間にいずみ寮の職員になった人は、行事の経験がありません。久しぶりの行事をうまく準備できるか心配でした。

これまでのベテスタの日はだいたい11時から始まり礼拝、食事を挟んで午後4時くらいまで交わりの時となっていま

した。今年はまだコロナの心配もあり、午後のお茶の時間に当たる2時から4時の2時間としました。

お菓子と果物でも準備しようと思っていたところ、栄養士からシャインマスカットのミニロールケーキとブルーベリーのタルトを作ろうかと考えていると提案があり、すぐお願いました。皆さんとのお話の時間を大切に考えると、お茶とお菓子を配膳する時間も惜しくなりお菓子ははじめからテーブルにセットしておきましょう、でも礼拝をしながらお菓子が目の前に見えているのもちよつと、ということになりお菓子を入れておく箱を探しました。ちよつといい大きさの箱がなかったのですが、いずみ寮では利用者の手芸作品を見栄えの良い手作りケースにに入れて販売していることから、箱作りの得意な職員にお願いすることにしました。ちよつといい大きさのおしゃれな柄の箱が7種類できあがり、ベテスタのマークも印刷されました。その箱を見て刺激を受け、ランチョンマット担当の職員がその箱に合う秋らしい柄のラン

チョンマツトを7種類作成してくれました。それぞれの職員の持つ賜物がどんどん集まってきました。

参加される皆さんの元気なお顔を拝見すると、うれしくなってきました。一部は礼拝、讃美歌、大泉ベテル教会の明星晃牧師のお祈り、大沼昭彦理事長の開会挨拶、横田施設長



の新法制定の喜びの話を聞きしました。

二部は交わりの時です。はじめに3人のシユベスターのお話です。シユベスター道からは館山におられるシユベスター歌子とシユベスター都代のご様子、今年5月に天に召されたシユベスター陽子のお話しも伺いました。シユベスター道子からは今年8月、シユベスター陽子の納骨式の際、横田寮長と伊比スタッフとお車でかたにたに出かけられたことがとても印象に残っておられるというお話しを伺いました。シユベスター知恵子は車椅子でのご参加でしたが、いつもの張り

のあるお声で、挨拶されました。

祈りの友からは木田みな子さんと余郷志津子さんのお話、祈りの友となられた頃の様子を伺いました。

各施設からの報告では、かにたの建て替え状況をパソコンから大きな画面に映し拝見。茂呂塾はコロナや夏の感染症がはやっても元気に子どもたちと過ごされていること、園児が減少していることに對し、新しいことに挑戦しておられるパワーを感じました。エマオの佐々木さんからは法人に関わられて50年とのこと。いずみ寮からはヒマラヤ杉が枯れてしまったこと、利用者が若くなり、それに伴って支援も変化していることが語られました。

どの方のお話も法人のはじめ

から途切れることなく多くの方々が働かれ、多くの方々が支えてくださっていることをあらためて強く感じました。今回ご参加いただけなかった方々からも出欠のお返事の通信欄には温かいお言葉をい



ただきコピーして皆さんと共有させていただきますました。

最後はシユベスター道が支援に對しての熱い思いを語ってください、お祈りをさせていただきました。そして皆さんと

「主よわれらたつ」を歌い、閉会となりました。

とにかく無事に皆さんをお迎えして会を行えるようにとばかり考えて準備してきましたが、会場で実際に皆さんのお話を伺い、長い間多くの方々がいつも見守ってくださいっていたことを感じることで励まされ、恵みの時となりました。

シユベスターの方々

と、今回ご参加は叶いませんでしたが長い間お支えくださっている祈りの友の方々、法人関係者のご健康をお祈りし、かにたの建て替えが無事に進みますようお願いいたします。

ベテスダの日

シユヴェスターお二人のご挨拶

「女性支援法」の成立について

天羽道子

——ベテスダの日、集いの最後に「お祈りをする前に、ひとこと申し述べさせていただきます。」と、シユヴェスター道が語られました——

昨年5月19日、新法「女性支援法」が、国会で審議され採択されました。婦人保護の根拠法が「売春防止法」(1956年制定)から「女性支援法」に、66年ぶりに変えられる決定がなされたのです。

かにた婦人の村施設長時代、全国婦人保護施設等連絡協議会における「売春防止法見直し検討」に、関わってきた者として、この決定に感動し感激しました。

そして、ここに至るために、全身全霊を傾注されてきた委員の方々、殊に最前線に立ってこられたいずみ寮施設長であり、全婦連会長でもある横田千代子さんのお

働きに頭が下がりました。

来春4月、婦人保護施設の根拠法が変えられ、新法による施設の運営がなされるに当たり、前向きな思いと共に、いささかの懸念が生じています。見直さなければならなかった「売春防止法」と「買売春」問題から、全く離れてしまつて良いのだろうか、と。

買売春が容認されている我が国の土壌は、売春防止法により改善されてきたのでしょうか。ますます深刻化している状況ではないかと、日々の新聞記事を通して懸念しています。新法のもと入所される方達も、多くは、何らかの形でその犠牲者。「売春防止法」には女性を処罰する条文があり、一方的に女性が差別されている、ここに新法「女性支援法」の必要性があったのです。

ベテスダ奉仕女母の家が、婦人保護事業を始めたのは、1958年。その4年前に誕生した「奉仕女運動」が、最初に取り上げた「仕える業」でした。

「我が国の中で、最も深く傷ついた婦人たちを、温かく迎えよう」と。今日振り返っても「真に神が備えてくださった業だ」と確信します。わたし自身は、1956年の「売春防止法」成立後、深津文雄館長と姉妹たちとの語らいの中で、我が国の「売春」について知りました。

しかし、「いずみ寮」開所に本気で関わり、いずみ寮に合計13年勤めたのち、1978年から「かにた婦人の村」の職員となつて、今日も村人たちと生活を共にさせていただいています。村人たちに「売春婦」として対することはありませんでした。「あそこは売春婦の施設」と言われ、偏見の目をもって蔑視されることに、人権侵害であると抗してきました。

性は人格であり、人権そのものです。その性を商品化している社会こそが、問われなければならないのではないか。

今日の機械文明の進化は、性被害を深刻化していると思われてなりません。アダルトビデオ、ポルノグラフィ等々。そして、これらが生業となっていることを、問わなくてもよいのでしょうか。

23年ぶりのかにた

植木道子

——体調の良くないことが多く、ベテスダの日の参加もなかなかできなかったシュヴェスター道子が、今年はベテスダの日に最後まで参加されました——

94歳になりました。サービス付き高齢者住宅で暮らしながら、金曜日はいずみ寮のCOCOアートでお手伝いし、お昼をみなさんと一緒にいただいています。

自分ではそんなに元気だとは思わないのに、その元気が積みもつって8月16、17日にかにたに行くことができました。

シュヴェスター陽子の納骨式に、連れていっていただきました。横田さん、伊比さんと3人で行って、高速道路をとばすのが気持ちよかったです。館山のペンションに一泊し、感謝しています。

シュヴェスター陽子の納骨式は、心がひきしまるような厳かな式でした。深津先生の告別式に伺ってからなので、23年

ぶりのかにた。いつまでも変わらないかにたの姿、建物、うつそうとした木々。でも自然の脅威には戦えないので、古い建物が建替えられるのは嬉しいです。

私は体が弱く、こんなに長く生かしていただけると思っていなかったので、不思議な気持ちです。自分の力がないのに、どこからか力をいただいていると思う。神様が何か望んでいらっしゃるのかなあ。今日はこんなに大勢の方がお集まりくださって、最近、話をしても、舌がもつれてしまうことが多く、話ができるか心配だったのですが、今日はそれがなくてほっと

してお
ります。

大沼

理事長
始め本



館や教会、いずみ寮の方々、私たちが困ったときにすぐに助けてくださって、温かい大きな恵みをいただいて、心から感謝しております。

「ちいさなよい事」(10頁より)

飛田さんがアルミ缶を集めてきれいに洗い、シュヴェスターしのお(故青木しのお姉)を通してACEFに送ったこと、バングラディツシュの子どもたちの文房具(石板)になったという「ちいさなよい事」が書かれています。

「以前は、道に落ちていた缶を拾うなど恥ずかしい事と思っていたことが、いま私自身が小さなよい事に関心を持つようになってから、尊い事に思えるようになりました。」

日々の聖句2024年版

ドイツのヘルンフート兄弟団の祈りの書(ローズンゲン) 日本語版は11月下旬に発売予定です。ご希望の方は、法人本部にお申し込みください。

主日の礼拝に歌われるコラルは、深津文雄訳の「ドイツ聖歌集」に載っているものです。法人本部またはかにた婦人の村へお申し込みください。

施設だより

エマオからの報告

職員からひとつひとつ

エマオでは、過ぎた一年をなんとか無事に過ごしてきました。このまま一年を終われると嬉しいです。エマオの利用者にコロナ感染者は出ませんでした。ただし、家族や同居の方の感染判

明があり、お休みしていただいたケースはありました。連休中に家庭内感染判明のケースもありましたが、エマオの事業を休止しなければいけない事案はありませんでした。

手洗い、マスク着用、黙食、換気等、職員、利用者共に気をつけ続けた結果かと思いい、これからも続けたいと思います。

バザーも今年は、延期や休止などなく予定通り実施でき、お送り頂いた品物を無駄にする事なく、バザーや館山駅前店、移動販売、委託販売等に活用できました。



戸外のバザー会場

寄付品、本当にありがとうございます。
郵便物の発送には、未使用切手や書き損じハガキなどを利用していただいています。
(施設長 佐々木 清)

いつもご支援ありがとうございます。
エマオでは、利用者さんの特性を考え、それぞれの力が出せるように作業を分担しています。みんな働くことが大好き。

不安や緊張でみんなと一緒にいることが困難なTさん、主に白い札にゴム印で金額を押す値札作りを担当してくれています。
頂いた寄付品にこの札を付けてバザーで販売しています。たくさんありがとうございます。

荷物を移動する時には、全員でバケツリレーの方法で行います。Tさんは、始めは近くにいることが精一杯でしたが、だんだん職員の隣なら参加できるようにな

りました。最近、顔をそむけながらもすが、利用者さんの列に入り一緒にがんばっています。

一人一人が必要とされる喜びを感じ、エマオでの作業にやりがいを持ってもらえるよう努めます。(佐藤 ゆかり)

現在、エマオは20代から60代まで、いろいろな年代の利用者さんがいます。

それぞれの障害も異なり、生活面も仕事面でも得意不得意がありますが、長い時間を共に過ごす事でお互いを思いやる気持ち成長しているように感じるこの頃です。今年も皆が元気に楽しく通えるエマオを目指してがんばります！
(間宮 直美)

開所当時からいる利用者さん含め15名の利用者さんと職員6名、総勢21名で毎日、仕事をがんばっています。

ひとりひとり得手不得手があり、興味のある事も違いますが、個人のマイナス部分をまわりの仲間のプラス部分で補い、得意分野を発見し生かしながら年4回の

バザー準備、エマオ店のお手伝いをしています。

台風被害、コロナ、戦争など色々ありますが、今年一年、全員健康で平和に過ごしたいと思います。
(松山 才子)

イベントやエマオ駅前店で販売担当を中心に支援しています。

コロナの関係で3年間、市内のイベントが減ってしまいましたが、昨年は年間4回開催したバザーの他に、市外で3回程フリーマーケットに参加することができました。

フリーマーケットでは、定価の計算は得意でも、半額になると戸惑ってしまう利用者さんもあります。駅前店では、バザーで残ってしまった品物を主に販売しています。小さい頃やったお店屋さんごっこをしているようで、利用者さんにとってお店当番は楽しみのようです。お客さんと接する事でコミュニケーションが苦手な人も少しずつ声を出し、挨拶ができるようになりました。お客さんも励ましの言葉をかけてくださり、温かく見

守ってくださいます。

皆様から頂いた品物で人と人が繋がり、生かされていることに感謝します。

今年も笑顔いっぱいのにしたいと思っています。
(本橋 奈々子)

エマオで過ごす日々の中で、利用者さんのお話に耳を傾け聴くという事を大切にしています。

特別支援学校を卒業後、エマオに通所を始めたKさん。明るくフレン

ドリーで、学生時代からの仲間達とふざけあったり、楽しいおしゃべりの時は大きな声が出せるのですが、健康観察や当番の挨拶、作業の場(自分のやりたい作業が出来ない時)では声が出なくなり、俯いて黙ってしまいます。



移動販売

ですが、頷きや首を振る事での意思表示、小さな声で返事や挨拶が出来るようになっていきました。職員との会話も増え、自分の体調や気持ち、トラブルや問題の状況など、発音が不明瞭で聞き取ることが難しい場合は筆談を交えながら、やり取りをする事が出来るようになりました。会話を通じて自分の思いが相手に伝わる喜びやわかってもらえる安心感を、積み重ねていく事が新たな意欲や自信に繋がりが、通所開始から六年経った現在は、みんなの前でしっかりとした声で返事や挨拶、報告等できています。最近では、字を読む・書く事にも興味が広がって、日々成長を感じています。それぞれの利用者さんにとって、エマオが楽しく安心して通える場所であるように、支援を模索していききたいと思っています。
(枡坂 香衣)

Kさんからの返事がなくても、その都度、声をかけ続け見守る事で、少しずつ

いつもエマオを支援してくださりがたうございます。これからも、エマオをよろしく願っています。

理事会・評議会報告

★第18回定時評議員会

6月24日

いずみ寮会議室

【報告】

- 第1号 令和4年度事業報告書承認の件
- 第2号 その他

【審議】

- 第1号 令和4年度決算報告書承認の件
- 第2号 令和4年度財産目録承認の件
- 第3号 理事並びに監事選任の件
- 第4号 その他

評議員全員の賛成で原案通り議決

★第249回理事会

6月24日

法人本部（テレビ会議と併用）

【報告】

- 第1号 第18回定時評議員会報告
- 第2号 かにた婦人の村解体撤去工事

入札の件

- 第3号 かにた婦人の村施設整備第2次

寄付金公募の件

【審議】

- 第1号 理事長並びに業務執行理事選任
 - 第2号 かにた婦人の村解体撤去工事
- 入札の件

- 第3号 指名競争入札参加業者の件

- 第4号 かにた婦人の村施設整備第2次

寄付金公募の件

- 第5号 第250回理事会開催の件

理事・監事全員の賛成で原案通り議決。

★第250回理事会

8月10日

（書面決議）

【議題】第1号 かにた婦人の村解体撤去

工事入札実施日変更の件

理事・監事全員の賛成で原案通り議決。

★第251回理事会

9月2日

【報告】

- 第1号 かにた婦人の村解体撤去工事

入札結果の件

- 第2号 かにた婦人の村施設設備変更・

追加工事費用の件

- 第3号 その他

【審議】

- 第1号 かにた婦人の村解体撤去工事

契約の件

- 第2号 かにた婦人の村施設整備変更・

追加工事費用承認の件

- 第3号 その他

（1）姉妹会からの借入金取り扱いに関する覚書の件

（2）かにた婦人の村建替え資金寄附のお

願い（第二期）寄付目標額について

（3）補助金申請添付の歳入歳出予算書

（見込書）又は決算書（見込書）抄本につ

いて

理事・監事全員の賛成で原案通り議決

編集後記

主のたいなる御名を讃美いたします。

お寄せ頂いた沢山のかにた婦人の村建替えご寄付を心より感謝申し上げます。引き続き皆様のお祈りとお支えを宜しくお願い致します。（大沼）

2023年11月15日発行（年3回）

発行人 大沼昭彦

編集人 村田英彦

印刷所 (株)印刷センター

発行所

〒178-0006 1

東京都練馬区大泉学園町7-17-30

社会福祉法人ベテスタ奉仕女母の家

電話 03-3924-2238

<https://www.bethesda-dmh.org/>

振替口座 001900-2-138164